

ヤングケアラー支援事業について

令和5年7月4日

令和5年度 第1回長野市総合教育会議

こども未来部子育て家庭福祉課

ヤングケアラーの現状

概要と現状

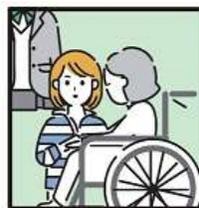
- 「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことを指す。具体例として下記のようなものが挙げられる。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

- 厚労省の調査では、「世話をしている家族がいる」と回答したのは小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%、高校2年生で4.1%という結果が出ている。

ヤングケアラーはなぜ問題か

- 「子どもが手伝いくらい当たり前」「年長の子どもが年下の子どもの面倒を見るのは普通」という考えは根強い。
- ヤングケアラー自身が、世話をすることで将来への大きな経験を得ることができると考えている。
- ヤングケアラーの問題点は「恒常的に相当量のケアや重要なケアに携わり、普通は大人がするとされているようなレベルの責任を引き受けている」点である。これにより、ヤングケアラーは身体的にも心理的にも負担が大きくなる。

ヤングケアラーの影響

○ ヤングケアラーが家族をケアすることの影響は多岐にわたるが、主に5つに分類される。

- ① 家族生活における親子関係の逆転
- ② 不登校などの教育問題
- ③ 社会的な孤立に象徴される社会生活及び友人関係
- ④ 低所得と貧困に見られる経済生活
- ⑤ 人格の形成と就職問題

→ この影響によりヤングケアラーがあきらめてしまうこととして、下記のようなことが挙げられる。

- ◇ 勉強や受験、進学
- ◇ 友達と放課後に遊ぶこと
- ◇ 部活動等の課外活動
- ◇ 自分だけの時間を持つこと
- ◇ 理解されることや気軽に相談すること
- ◇ 子どもらしく自由に夢を描くこと



ヤングケアラーへの支援が急務

国のヤングケアラー支援策

取り組むべき施策(厚労省から)

(1) 早期発見・把握

ヤングケアラーは、表面化しにくい構造となっている。支援を行うにあたって様々な分野が連携し、潜在化しがちなヤングケアラーを早期に発見することが重要。また、支援を行う際には、まずはしっかりと子どもの気持ちに寄り添い、支援が必要なのか、どのような支援が欲しいのか等について聞き取ることも重要。

(2) 支援策の推進

(1)により発見・把握したヤングケアラーの心身の負担を軽減し、子どもらしい生活を送ることができるようにするためには、既存の支援サービスに適切につなげる必要がある。

(3) 社会的認知度の向上

ヤングケアラーの周囲の同級生、大人がヤングケアラーについて理解を深める。家庭において子どもが担っている家事や家族のケアの負担に気付き、必要な支援につなげることや、支援を進めていくためには、具体的な支援施策や窓口設置の周知と併せ、ヤングケアラーの社会的認知度を向上させることが極めて重要である。

厚生労働省「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告」
R3.5.17

長野県ヤングケアラー実態調査(長野市分)の結果と課題

◆調査対象:小学5・6年生、中学生

◆調査期間:令和4年9月1日～令和4年10月25日

・「お世話をしている家族がいる」と回答した小学5・6年生は10.3%(約10人に1人; 35人クラスで3~4人)、中学生は5.5%(約18人に1人; 35人クラスで2人)で「きょうだい」や「母親」のお世話をしている人が多い。

【別紙:2P上】

・お世話の内容は「家事」が多く、「ほぼ毎日」、「3時間未満」が多い。【別紙:3P下、4P上・下】

・家や学校での影響が「特にない」、「大変さは感じない」が多いが、「自分の時間が取れない」、「宿題や勉強をする時間が取れない」との回答もあり、学校生活や私生活に支障を及ぼしている場合もある。

【別紙:5P下、6P上】

・相談については「相談するほどの悩みではないから」相談したことがないが多く、相談者についても「いる」が最も多いが、小・中学生ともに3割程度は「いない」との回答があり、誰にも相談できない状況もある。

【別紙:7P上・下】

・相談方法については、「面談」や「電話」が多く、小学生では「自分の話を聞いて欲しい」、中学生では「学習サポート」などの支援を求める声もあった。【別紙:8P上・下】

・自分がヤングケアラーである自覚が低く、言葉すら知らない小学生が7割、中学生が5割いる。
認知度の低さが浮き彫りとなった。【別紙:9P上】

長野市の取り組み方針

○本市では年齢を区切ることなく、ケアを担う幼い、若い世代のケアラーたちへ支援したいといった明確な意図をもって「子ども・若者ケアラー」という用語を用い、概ね30歳代までの若者を対象とする。

○庁内・関係機関と連携し、ケアラー支援施策の検討を行う。

(1) 庁内プロジェクトチームの設置

(2) 「相談・支援窓口」の設置

(3) 「研修会」の実施(身近な人への理解の促進)

① 行政職員(特に福祉・児童担当部署)の職員

② 学校の教員・養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

③ 市議会議員、民生委員・児童委員、子どもの居場所(こども食堂、NPO法人など)、障害福祉及び介護保険サービス事業所関係機関(ケアマネージャー等含む)など

(4) 「ケアラー支援ネットワーク」の構築

(5) 「交流と情報交換の場」の設置

令和4年度の取り組み実績について

子ども・若者ケアラー市内プロジェクトチームの発足・会議

- チームリーダー　こども未来部長
- 副リーダー　子育て家庭福祉課長・教育委員会学校教育課長
- 主要メンバー　福祉政策課・生活支援課・高齢者活躍支援課・地域包括ケア推進課・障害福祉課・長野市保健所健康課
こども政策課・子育て家庭福祉課・教育委員会学校教育課

- ◇「相談・支援窓口」設置　→何かあった時の相談窓口としての機能、関係機関との連携に課題
- ◇「ケアラー支援ネットワーク」設置　→気づき、繋げるシステムを構築する必要がある。
- ◇「交流と情報交換の場」設置　→同じ状況に置かれている人同士の場づくりとして機能。どう繋げるかが課題

プロジェクトチームによる発見方法

- プロジェクトチーム内で調査を行い、ヤングケアラーの発見方法を確認【8シート参照】

社会的認知度向上のための研修(各種2回/計6回)

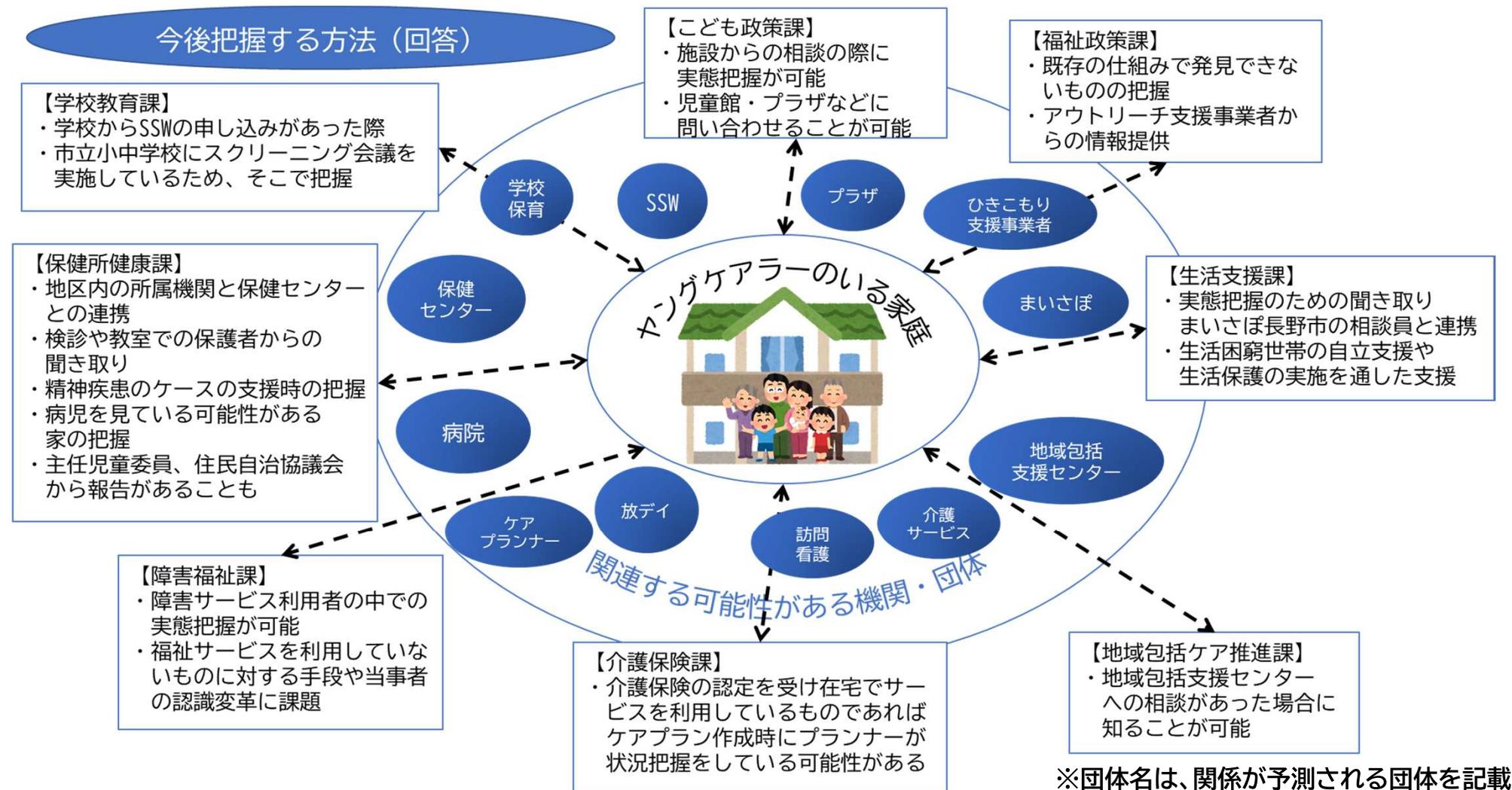
○ケアラーアクションネットワーク協会の代表であり元ヤングケアラーの持田恭子氏を講師として招き、ヤングケアラーに関する基礎的な知識や体験談、オンラインサロンの運営などから身近な人々の理解促進を図ったことの講義を受けた。

○対面、オンラインで実施し全編通して264名の参加があった。

- (1) 長野市職員向け研修会 「ヤングケアラーの現状と課題」
- (2) 教育関係者向け研修会(教員・養護教諭、SSW, SC等) 「学校におけるヤングケアラーへの対応と支援について」
- (3) 地域支援者(市議会議員、民生委員児童委員、子どもの居場所、障害福祉及び介護保険サービス事業者(ケアマネジャー等))
向け研修会 「ヤングケアラーを知っていますか」

ヤングケアラーの発見方法について

庁内プロジェクトチーム内において、発見方法について調査（令和4年度）



令和5年度の取り組みについて

相談・支援窓口の設定

コーディネーターの配置

→本年度配置(2名)

→窓口設置や学校訪問等により早期発見・把握に努め、状況により必要な支援機関へつなげていく。

プロジェクトチームでの協議・検討

子ども・若者ケアラーの支援に対して意見を交わしあい、適切な支援方法を検討する。

困難を抱える全世代のケアラーを切れ目なく支援していく。

交流と情報交換の場

小・中・高生を中心に幅広く、悩みや経験を共有、情報交換等できる交流の場づくりを計画している。

その中で、ヤングケアラーを発見し、必要に応じ、支援に繋げていく。

広告・啓発活動

○パンフレット作成

対象:小中学生、学校訪問、出前講座など

内容:「分かりやすく」「見やすく」をコンセプトに作る。

ケアしていることが、ネガティブに伝わらないような文面
子どもが手に取りやすく、持ち運びやすいサイズで

○広報活動

対象:市民全体

目的:ヤングケアラーの情報周知

内容:YouTube, LINE, Twitter等のSNSを活用

研修会の実施

(中学生・高校生向け)

目的:認知度向上

時間:1時間以内

内容:ケアラーについての知識や体験談をもとにケアラー本人が自覚し前向きになれるような研修内容とする。

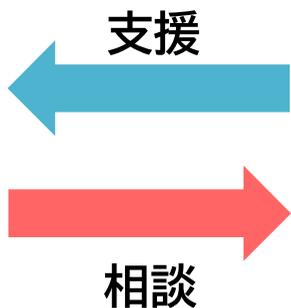
(教育関係者・地域向け)

目的:おさらいとステップアップ

時間:1～2時間

内容:ケアラーについての知識の振り返りを行い、具体的な支援や何が実践できるのかを考えていけるような研修内容とする。

支援ネットワークのイメージ



切れ目のない
細やかな支援

切れ目のない
細やかな支援

Text in a blue rounded rectangle: '切れ目のない 細やかな支援' (Seamless, detailed support).

